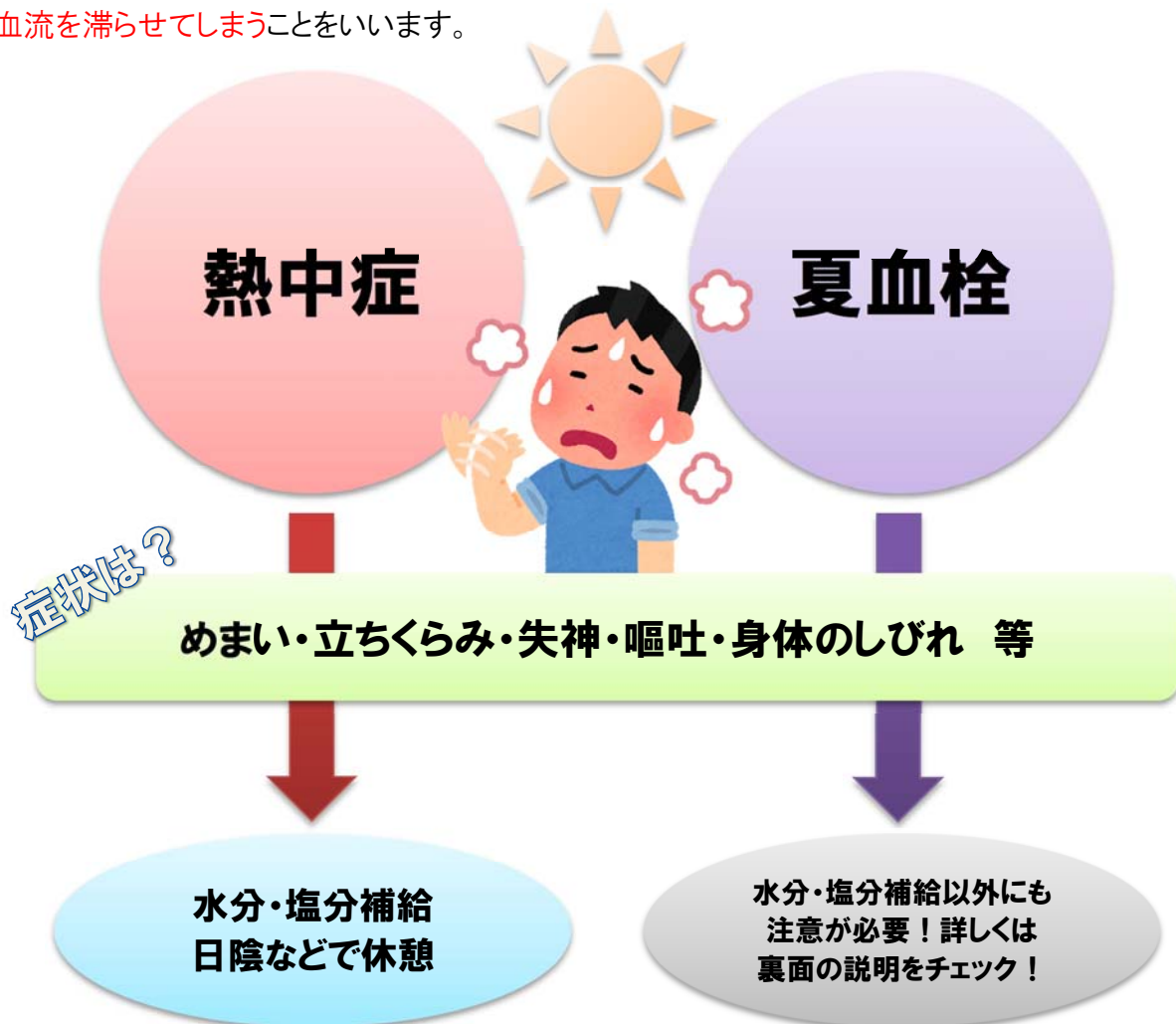


知っていますか？「夏血栓」

今年の夏は例年より早い梅雨明けとなり、連日の記録的な猛暑の影響で多数の熱中症患者が出ています。猛暑日にめまいやふらつきなどを感じると熱中症を疑う方も多いですが、この**熱中症と似たような症状を引き起こす「夏血栓」**がテレビやインターネットで話題になっています。熱中症との違いをしっかりと理解して、残りの夏を乗り切りましょう！

熱中症と夏血栓の違いってなに？

「熱中症」は、気温の高い環境にいることで体温調節がうまくいかなくなったり、体内の水分や塩分のバランスが崩れたりすることで起こる体の不調です。症状としては、「めまい・失神・嘔吐」などが主にあげられます。「夏血栓」は、汗をかくことで体から水分が奪われ血液がドロドロになり、血のかたまり＝血栓ができて**血管をふさいで血流を滞らせてしまう**ことをいいます。



夏血栓になると血流が悪くなり、様々な病気を引き起こす恐れがあります。中でも熱中症と間違えやすく注意の必要なものが「**一過性脳虚血発作**」という病気です。対処方法を間違えると**脳梗塞を引き起こすこともある**ので、熱中症との違いを見逃さないことが大切です。では、具体的にはどのような違いがあるのでしょうか。

よく似た症状の熱中症と夏血栓。わずかな違いを見逃さないためには？

※裏面へ続く

一過性脳虚血発作の特徴をしっかりと抑えましょう！

一過性脳虚血発作の特徴的な症状は、脳の一部の血液の流れが悪くなることで、半身の手足のしびれ、片方の眼が見えなくなるなど、**身体全体ではなくほとんどが片側に障害が起きるところがポイント**です。



顔の動きの違和感、麻痺
片側の手足のしびれ



ろれつが回らない
片方の目が見えない



しかし、24時間以内(多くは数分から数十分)に血液の流れが元に戻り、麻痺などの症状は完全に消えてしまいます。そのため熱中症と勘違いしたまま少し休憩をして体調が良くなってくると、熱中症が治ったと思って安心してしまうのです。

症状は治まったけど…

やっぱり心配だな。
念のためすぐ病院へ行こう！

治療！



すぐに治療したので
大事に至らず！

きっと熱中症だな。
もう治ったから大丈夫！

放置！

数日～数カ月の
間に脳梗塞に！



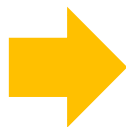
実際は血栓が一時的に取れただけで、**脳梗塞のリスクは残ったままの危険な状態**というわけです。この状態のまま放置しておくと、3カ月以内に15～20%の方が脳梗塞を発症し、そのうち半数は**数日以内(特に48時間以内)に脳梗塞になる**と言われています。

出典：国立循環器病研究センター

生活習慣病の人ほど高リスク！目頃からの予防を心がけましょう！

一過性脳虚血発作や脳梗塞は血管が詰まりやすい人ほど発症のリスクが高く、**高血圧や脂質異常症の人、糖尿病の人は特に注意が必要**です。また、夏血栓を予防するためにも、水分補給はこまめに行い、規則正しい生活を心がけましょう。もし発作が起きてしまった場合は放置せず、早急に病院で治療を受けましょう。

生活習慣病予防のために
健康診断を受けたい…



年に一度は必ず
健診を受けましょう！



税理士国保の健康診断制度をご利用ください

○人間ドック

(全加入者対象、補助金制度あり)

○特定健康診査

(40～74歳対象、受診券利用で基本項目が無料)

○巡回健診

(18歳以上の加入者対象、毎年6～9月の間で実施)

※詳しくは当組合事務局までお問い合わせください

作成：関東信越税理士国民健康保険組合
さいたま市大宮区桜木町 4-376-1
TEL:048-631-2211 FAX:048-644-3030



こちらのQRコードをスマートフォンで読み込むと組合HPへアクセスできます。